

## 第2回城東学園小中一貫校整備検討委員会 概要

日時	令和6年9月24日(火) PM7:00～9:15
場所	大東北公民館 集会室
出席者	委員 20名 事務局 教育政策課長、学校再編室長、学校再編係長、地域計画建築研究所4名
内容	
■：委員会での検討内容	
1	開会
2	委員長あいさつ
3	前回の振り返り
	(1) スケジュール確認 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料1-1</span>
	(2) 前回議事録の確認 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料1-2</span>
4	報告事項
	(1) 保護者意見交換会の開催について <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料2</span>
	(2) 沼津市立静浦小中一貫学校の視察について <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料3</span>
	(3) ご意見フォームに寄せられたご意見について <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料4</span>
5	協議事項
	(1) 学校建設地について <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料5</span>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 学校建設地の決め方について2つの提案があった。一人一票をもち、投票で決定するもの。もう一つは、評価シートに点数を入れて合計点数で決定するという案。</li> <li>■ 学校敷地の選定の責任をこの検討会メンバーで負うことはできない。第3回に協議し、その後、地域の説明をして市で決定するのであればわかるが、本会で決定することは責任を負えない。 ⇒この場での決定は、道筋の一つである。地域のご意見もいただき、最終的な場所は、掛川市・教育委員会で検討の上、決定する。ここで決めたものと最終決定が変わる可能性もある。</li> <li>■ あくまでも委員会の総意として建設地について考えをまとめるということが良いか。 ⇒そのとおり。</li> <li>■ 建設地にかかわる懸念があったが、多面的な視点で資料を作成していただいている。原野谷と比べてということではなく、3つの候補地について、多面的に整理することが重要。提案としては、挙手で決めるのではなく、委員としては、様々な面を検証し、望ましい場所としての意見を積み上げて決定することが良いと考えている。</li> <li>■ 投票で決めるのは難しいと感じる。方向性を議論し、提案するという事は良いと思う。</li> <li>■ 順位付けするのではなく、様々な側面で見ると。防災面など、私たちではわからないところは点数を入れてもらい、地域の連携などの視点で評価シートを整理することでよいと思う。</li> <li>■ 資料を拝見していたが、この1時間でこの内容を整理するというは難しい。評価シートについて疑問に思うことなどをこの時間で聞いて意見をいただければどうか。</li> <li>■ そういった疑問点等もあると思い本日は決定しない想定。ここに書いていることはどうということか、など疑問を出し、答えてもらいながら進めていく。 ⇒疑問点があれば、お問い合わせをいただきたい。オープンチャットも活用いただき、対話できればと考えている。</li> </ul>

- 前回にたくさんの意見を出していただいた。多面的な資料を用意してもらっているが、専門用語などもあるため、すぐにはわかりづらい。そのため、右上に書いてあるように評価の視点を事務局の参考として記載してもらっている。これを参考にしてもらってもできる。様々な質問をいただき、その回答を共有しながらまとめられれば良いと思う。評価シートで項目別に点数をつけて第3回に持ち寄って評価する。あくまでもこの委員会のなかでのまとめを作る。重点が置かれている点や評価の仕方など懸念があれば発言をお願いしたい。
- 評価5～1は何に基づいて数字をつければよいかわからない。ある程度の基準を出していただけると数字を入れやすいと思うがいかがか。
  - ⇒ 基準項目を作るのは難しいと思う。各委員がそれぞれの候補地をランク付けして3段階で評価していただければよいのではないかと思う。同列になる場合もあるので2段階になることもある。
- 自分なりに咀嚼しながら検討する。
- 評価については、優劣はつけず、例えば10点を配分していった方がわかりやすいのではないか。2点や1点は感覚でしかないので、3つを比べて、振り分けで優劣を決めてもらえればよいと思う。
  - ⇒ みなさまがその方法が良いということであれば問題ない。提案では、同じ評価であった場合、同じ点数を書くことができない。全体バランスを考えれば課題がある。
- 例えば合計10点の場合、3点、3点、3点で1点あまりが出ると思うので、その1点をどこに入れるかというのがある。
- 合計を9点にして、3点ずつにする。そうすれば、必ず9点を振り分けることができるが、ほかに意見はないか。
- 今の提案は難しいように思う。すべて同じなら3点でよいが、良かったら4点でもよい。基本は3点として、それよりよければ4点5点で評価すればよいのではないか。
- 基本点数を3点。自身の判断でそれよりよければ4点、さらによければ5点、劣れば2点、1点とする。みなさんいかがでしょうか。
- 委員同意
- 評価方法は投票ではなく評価方式で行う。評価シートを用いて、基準点を3点にして、各自のご判断で加点、減点することで評価いただき、次回評点をお持ちいただく。ということがいかがか。
- 委員同意
- 候補地は、当初2候補であったが、佐東小学校についてはいつから候補になっているのか。
  - ⇒ 冒頭に事務局から説明があったが、8月7日までに候補地があれば出してもらうよう依頼しており、委員から候補地の提案があった。
- アンケート結果では佐東小学校は少なかったもので、候補になっているのを疑問に思ったが、そのような経緯であれば理解した。
- 評価シートの安全性の長距離通学者に想定人数が書いてあるが、4kmは歩かせることができない。ランドセルも重く、高低差もある中で、4kmは考えられない。暑い時間帯に歩くため通学支援の対象が4kmで想定人数が少なくなることで5点となることに疑問をいただく。
- 長距離通学者の項目を掲載するか、しないかという指摘。3つの候補地のどこになるろうとも支援のあり方は、これから議論すべき内容。3つの候補地について考えたとき、距離感も違う。交通便利性から長距離通学者を消すということになるということか。
- 通学支援も高低差がある場合2kmでも厳しいため、4km圏内のパーセンテージのみだと評価しにくい、2km以内、3km以内だとどれくらいといった各km数のパーセンテージを出して欲しい。
- 個人的には項目はあった方がよいと思う。距離の検討は今後あると思うので、2kmの場合、3kmの場合といったパーセンテージ等の情報はあってもよいと思う。事務局に改めて資料を出していただくということでしょうか。

- この地図をみるとコンパスで円を描いた距離で2km、3kmと表記されているが、直線で行けるわけではない。地形などを十分に考慮して、どこに通学路を通すのか。地図上では直線距離3kmでも、道のりは4kmの場合もあるので、十分に検討してもらいたい。
- 事務局の方で、参考資料として高低差を作成してもらっている。これを参考に気になるルートについて新規に高低差の資料を作成してもらうなども検討してもよいのではないか。⇒要望があれば対応する。指摘の距離については、実際に通学支援の対象となる児童を検討する際には、沿道上の距離で判定する。今回は概略で検討してもらいたい。
- この距離についての項目を評価シートから外すか。入れるのであれば距離の表記について2km、3km等のパーセンテージを表示してもらおうという意見がでてきているがどうか。
- 外すよりはパーセンテージを追記してもらった方が今後の検討にも使える。割合については、2km、3km、4kmで割合を記述してもらいたい。
- 通学バスに関する市の考え方を説明してもらいたい。  
⇒来年度、原谷・原田の統合に向けて支援距離を検討しており3kmとしている。ただ、3kmでも厳しいとの意見もあり、地域の納得もいただけていない状況でもある。中、土方の地区説明会でも意見をいただいているので、持ち帰らせていただき、検討していきたい。すぐに回答が出るわけではないが、保護者からの意見を踏まえると3km1時間の距離も厳しい状況であることもわかる。この辺りを含めて検討をしていきたい。
- 長距離通学者の項目は残して、検討する距離は改めて相談。その資料を市から流していただいたものを皆さんに見ていただき判断するというところで進めたいと思う。
- 通学路の安全性について評価することとなっているが、幅員や通学路の状況については明快に判断してもらいたい項目が記載されている。想定人数については抽象的で何を評価するかわからない。ここは何を評価するのか明確にしてもらいたい。中地区でも通学に関する意見はとても濃い議論がなされた。ここでは、何を聞きたいか議論しないといけなと思う。各グループで3分程度議論し、各チームで発表してもらおうのはどうか。  
⇒良い表現を出していただけるのであれば、ぜひ伺いたい。
- 長距離通学者の判断指標として、子どもの想定人数ではなく、どういった評価付けをしたほうが良いか。考えてもらうということか。具体的な案はあるか。
- この評価は載せない方が良いと思う。抽象的で基準として載せられないと思っている。
- 個人的には残しておきたい。それよりも今後の検討のため、様々な距離における割合を教えてください。通学に関しては、今後議論しないといけませんが、通学するに際して、危険性もあるため、この聞き方では削除という気持ちもわかるが、〇kmでどの割合かは有用な情報かと思う。項目は欲しいと思う。
- 地図をみると4kmは隣の学区に行ってしまう。6kmといえば市外に行ってしまう。この距離では議論にならない。それでいて、通学支援が少ない場合、少ないとよいのか。スクールバスが必要になるということが顕著にわかるようにした方が評価しやすい。
- 長距離通学者はスクールバスに乗せるかどうかではなく、学区となる3小学校のエリアが長距離で通う生徒が偏らないようにといった視点で候補地を選定する評価とした方が良くもしいかな。
- 城東学園小中一貫校の範囲を見ているだけだが、掛川市の既存の学校はどのような通学をしているのか、例えば桜木小学校は、どの程度の方が、どのように歩いているのか。大浜や横須賀の方はどうか。など、そのあたりを見たい。この範囲だけでなく、市全体で考えないといけない。
- 通い方について、距離や道のりと合わせて検討することは、多く議論されることと思うが、建設地の候補を検討する際に並行して議論することは難しい。建設地が決まったうえで、交通を考えるのであれば良いが、3つの候補地を並行して距離とスクールバスを考えるとすると先の長い整理をしていくことになる。それについては、どうか。
- 一貫校のモデル校として、基準を決めて距離を定めた方が良いと思う。中地区の委員会や地域説明会でも意見が出ているが、候補地の一貫校を整備することと通学路が両輪の議論になっていない気がする。地域としては、中小学校がなくなり地域の衰退なども懸念されるため、並行して考えていきたい。一貫校は、これを進めることと合わせて、交通の問題、通学の問題、地域環境の問題、衰退の問題など、マクロ的なことを検討していきたい。
- 佐東地区でも土方地区でも同じ状況。この地域で考えていかないといけない問題だと思う。

小学校跡地をどうするか、小中一貫校を整備したあとをどうするかなどは重要なことだと思うので、施設の使い方からも意見を出していくことは重要である。再度確認するが、一貫校を整備する場所として事務局から3つの候補が出ている。これから絞っていくことになる。3つの土地について、どれが良い、どれが悪いということで決まっていくことは避けたい。評価シートを用いて、次回個別の評価を持ち寄り議論したいと思っている。そのための評価項目について検討しているが、交通手段やその距離等について長距離通学者の人数を判断にするか、子どもの通学支援の想定人数というのは、適さないのであれば削除することになる。

■ スクールバスの4 km、6 km以上の想定人数については、経済的な視点が大きく、バスにかかる経費などが焦点となっているので経済性の枠に入れればよいのでは。安全性・利便性にあるために議論が複雑になっているのでは。そもそも3 kmを想定しているのであれば、そこを基準に長距離通学者がどのくらいいるのか明確に人数を出していけばいいのでは。安全性については、3 km未満の児童生徒の人数を整理できれば良いのではないかと。

■ この提案は、長距離通学者の観点ではなく経済性の判断としたらどうかということだが、1 kmから3 kmの範囲での人数はデータとして出してもらい、そのうえで経済性の観点から評価したらどうかというご提案であった。個人的には皆さんにご納得いただける良い案であると思う。

■ 提案を聞いて納得をしたが、市として経済性の評価としてよいか回答を聞きたい。

⇒ それも一つの理由であり、外れていない。現行の基準では長距離でも歩かないといけない。その人数は明確にしたうえで、長く距離を歩く人がいるか、数字を見ながら判断いただきたい。

■ スクールバス対象児童の人数（3 km以上）、パーセンテージは経済性。3 km以内の歩かないといけない児童の人数、パーセンテージは安全性・利便性とすれば指標としてわかりやすいと思う。

■ 経済性にも長距離通学者の項目を加えて3 km以上の児童生徒の割合で評価する。スクールバスに想定される費用を経済的に考える項目とする。安全性・利便性では1 kmから3 kmの各距離数でどのような値になるかを出し各委員が判断して評価する。判断項目が増えて満点が75点となるが、それは構わないと思う。長距離通学者に対しての視点をたくさん入れて判断するという総合評価が可能となると思う。事務局からなにかあるか。

⇒ 資料は作れると思うので、資料に基づいて2つの項目で判断いただきたいと思う。

■ 東京女子医大への通学ルートは、違うところから入るのか。城東こども園から入るのであれば、送り迎えがあるので安全性に疑問がある。

⇒ 現段階では通学路の選定はしていない。場所が決まった段階で地域から経路が安全か検討いただくこととなる。単純に交通量だけで考えるのではなく、高低差の問題などもある。複数の視点で考えないといけないと思う。その点で地元の視点でご判断できるのかと思う。

■ 小中学校は道沿いに設置されている印象である。女子医大跡地は、奥まっっており、正面の道から様子が見えないため、孤立するのではないかと。後から保護者が学校の様子が分からないといった意見があるのではないかと。

⇒ 学校の敷地について、市内の学校がすべてそうではない。城北小や原田小は、山の上に立地しているので、上らないと子供たちの状況はわからない。個人的には評価項目としてはどうかと思う。

■ ほかに評価シートについて意見はあるか。では、投票方式ではなく評価方式の判断とする。評価シートの長距離通学者の項目は1 kmから3 kmの各距離数でどのような値になるかを出し各委員が判断して評価する。経済性にも長距離通学者の項目を加えて3 km以上の児童生徒の割合で評価する。意見を踏まえて書き込みシートを修正いただくのでこれに基づき評価をお願いしたい。市としての決定ではなく、あくまで委員会としての意見を出す。また、本日予定していたワークショップは次回としたい。新しい学校に望むことなど、本日の資料を読んでいただき、ワークショップシートの2項目について書き込みしてもらいたい。第3回に実施することとするため、書き込みシートを用意して、第3回に持参してもらいたい。それでは、後の進行は事務局にお戻りする。

(3) 新しい学校に望むこと、継承したいこと (ワークショップ) 次回へ順延

6 今後の予定について

(1) 委員会だより (第2号) の発行について 資料8

(2) 地区説明会の開催について 口頭説明

(3) 検討委員会のLINEオープンチャットについて 資料9

7 閉会